

# 個人的な召命（真の幸福への道）

## ◆ 人生の目的

1. ㊦「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。」エフェ 1:4-5
  2. ㊦「わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。」1コリ 8:6
  3. ㊦「また、わたしに言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。渇いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう。」黙 21:6
- 人間は、愛である神によって、神に向けて（神と愛の交わりに生きるために）創造されています。
  - 宇宙万物の創造主である神ご自身が、人間の本源であり、人生の最終的な目的です。

## ◆ 愛の完成による一致

4. ㊦「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。」ヨハ 17:21
  5. ㊦「イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。」ヨハ 14:23
  6. ㊦「わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内になるようになります。」ヨハ 17:26
  7. ㊦「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」ヨハ 17:3
  8. ㊦「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」マタ 6:33
- 人間は、愛によって神と結ばれ、愛の完成によって一体となります。

## ◆ 永遠の命（神との一致）への道

9. ㊦「神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。」1テモ 2:5
10. ㊦「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。」ロマ 6:3
11. ㊦「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。」1ヨハ 3:1-2
12. ㊦「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。」ロマ 8:28-29

13. ㊦「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。」ガラ 3:27
14. ㊦「わたしの子供たち、キリストがああなたがたの内に形づくられるまで、わたしは、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます。」ガラ 4:19
15. ㊦「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」2 コリ 3:18
- 永遠の命（神との一致）へ向かって歩むとは、キリストに結ばれて、キリストに倣って生きることによってこの絆を強め、最終的に、キリストに似たものとなることです。
  - 少しずつキリストのようになることは、神である父との交わりが深まっているしるしです。

## ◆ 個人的な召命

16. ㊦「ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる、「恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。」イザ 43:1
17. ㊦「恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。」イザ 45:1
18. ㊦「島々よ、わたしに聞け／遠い国々よ、耳を傾けよ。主は母の胎にあるわたしを呼び／母の腹にあるわたしの名を呼ばれた。」イザ 49:1
19. ㊦「門番は羊飼いはは門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。」ヨハ 10:3
20. ㊦「しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」エレ 31:33
21. ㊦「耳ある者は、“霊”が諸教会に告げることを聞くがよい。勝利を得る者には隠されていたマナを与えよう。また、白い小石を与えよう。その小石には、これを受ける者のほかにはだれにも分からぬ新しい名が記されている。」』黙 2:17
- 神は私たちを集団としてではなく、一人ひとりを個人的に愛しておられます。そして、一人ひとりのために、個人的な計画（召命）を準備してくださいました。
  - 皆が、キリストの似姿になるように招かれています。それは、一人ひとりのために準備された、それぞれ異なるキリストの似姿（異なる側面）です。
  - 召命の二つのレベル：
    - A. 表面的：形、役割（妻、夫、母、父、司祭、医者、運転手、音楽家）
    - B. 内面的：内容、あり方、精神、霊性

## ◆ 個人的な召命を発見するためにできること

22. ㊦「島々よ、わたしに聞け／遠い国々よ、耳を傾けよ。主は母の胎にあるわたしを呼び／母の腹にあるわたしの名を呼ばれた。」イザ 49:1
23. ㊦「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。」エフェ 1:4-5
- 神に近づくことや自分の人生において神の働きを見出すのを妨げるもの（罪、悪い癖、執着など）を認識し、解放していただくように祈り、自分にできることをすること
  - 自分の人生における神の導き（人生が向かっている方向）を発見すること
  - 自分の中で成長しておられるイエスを知ること

# 靈的な生活の原則

## 1. 自分らしく生きること（誰かの真似をしない）。

- それは、わがままではなく神に似せて造られて、神の栄光を現す自分、神の子である自分として生きることです。
- 靈的な生活の目的は、神が求めるような自分（真の自己・神の心に適う者）になることです。そのために神の呼びかけ（個人的な召命）に応じて、神の導きに従う必要があります。（古い人を脱ぎ捨て、新しい人を身に着ける）

## 2. 無理しないこと。

- 努力しすぎることや無理することは、自分の力に頼ることを表わす可能性があります。その場合、自分の努力は、靈的な成長の妨げとなります。
- 真の靈的な成長は、人間の努力の結果ではなく、聖霊の働きの結果（実り）なのです。そのために、何よりも聖霊に対する信頼を深めるように、また、聖霊の導きに従って生きるように努める必要があります。
- 聖霊の導きを見分けるために、キリストの教えと模範、また、神と教会の掟と同時に自分の能力や身分、それから、いろいろな責任や任務などを基準にする必要があります。

”Grace builds upon nature,” 「恩寵は自然を破壊せず、却ってこれを完成する。」

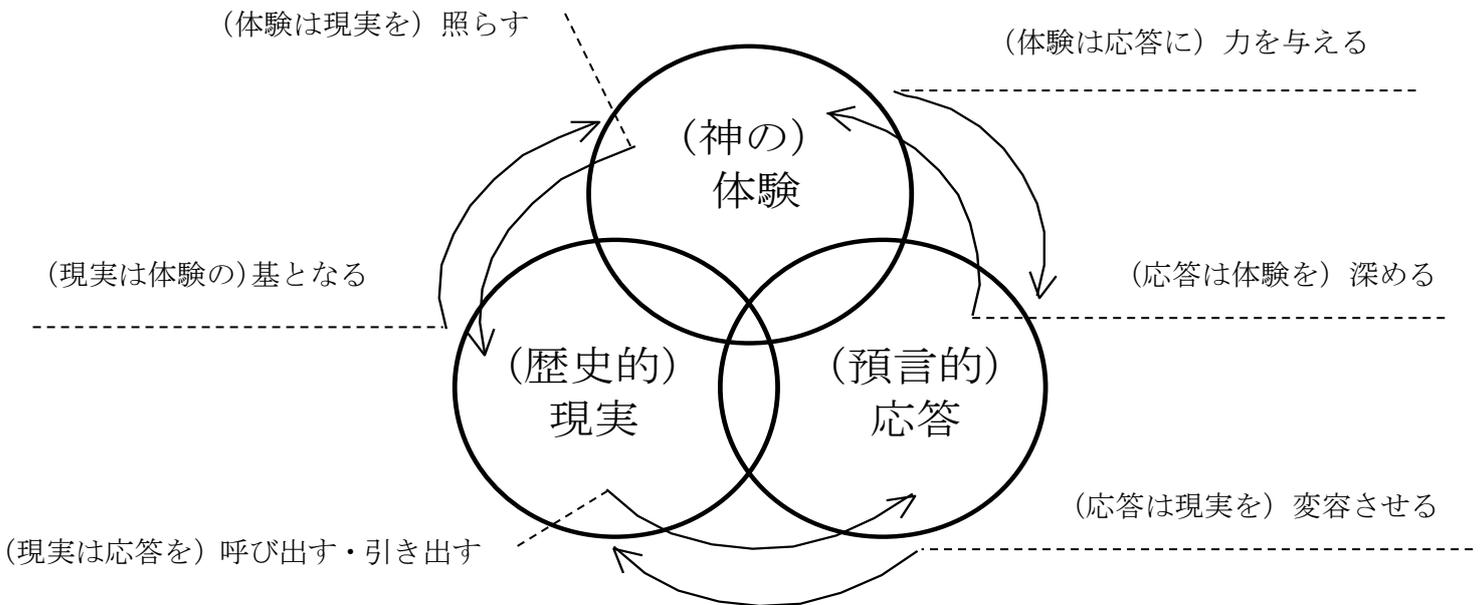
St. Thomas Aquinas

## 3. 自分をありのまま認めること。

- 認めることは、評価することではなく、現実として受け入れることです。
- 自分の強いところや誇るべきところだけではなく、不完全なところ、弱いところや悪いところ、自分の、欲望や必要性、不安や恐れ、傷ついているところや傷つきやすいところをありのまま認識しない限り、人間として正しく生きることも、成長することもできません。
- 以下のような極端な態度を避けることが大切です。
  - A. 必要性に関する態度
    - A1. 自分の真の必要性を否定する
    - A2. すべての望みや欲望を満たすように努力する
  - B. 他人に対する態度
    - B1. 自分の力や能力を否定し、いつも他人に頼る
    - B2. 自分の力だけを頼りにして、いつも自立を保つように努力する
  - C. 苦しみや楽しみに対する態度
    - C1. 出来るだけ楽しみを避けて、苦しみを増やす
    - C2. 出来るだけ苦しみを避けて、楽しみを増やす
- 靈的に成長するために、どんな場合にも、愛を基準にしなければなりません。

#### 4. 自分の現状をありのまま認識し、それを認めること。

- 神は、あらゆる状況においてもおられ、私たちに導いてくださるので、現在自分があるところ、良くない（霊的な成長に相応しくない）と思われる現状の中でも成長することが可能です。
- 今のままでいいと思う必要がないが、慌てずに、現在あるところ（状況の中）にとどまって、落ち着いて生きることが大切です。要するに、現実から逃げずに、それを出発点にすることです。
- 人間がどんな人になっているかということは、今まで何を体験してきたか、どんな環境において生きてきたかということではなく、それに関してどんな態度をとったか（神の導きに従ったかどうか）ということによるものです。



#### 5. 自分の感情に対する態度

- 望ましくない感情を抑えたり、この感情をもつ自分を責めたりしないこと。
- 感情（emotion）は、自分の中で起こっていること（自分の期待や価値観などを）を知らせるものとして、またはエネルギーの源として、霊的な生活を支えることができます。（敵ではなく、味方です。）
- したがって、自分の感情を理解するように努力すること、自分の感情を豊かにすること（祈り、自然、美術、芸術、文学）、または、他人や被造物の真の価値を見出すことは必要です。

#### 6. ゆとりや適応性をもって生きること。

- 自分の生活を厳しく管理したい、立てた計画を固く守りたいという望み（があれば、それ）を手放す必要があります。
- 計画そのものは、勿論重要で、必要なものでありますが、絶対的なものではありません。自分の計画をあまり重要しすぎる（絶対的なものにする）のは、神の導きよりも、自分自身を信頼することを表わす可能性があります。
- 霊的な生活において大事なものは、自分の計画ではなく、創造主であり、全能の神である御父の計画を果たすことです。
- 霊的な成長とは、何よりも、キリストによって神との関係を深めることです。他の人との関係と同じように、神との関係の流れを計画することができませんし、相互関係の発達を予想することもできません。この関係が成長するためには、相手を一方的に自分に合わせたり、相手を操ったりすることなく、相手（その自由、性格、必要性や望みなど）を尊重しながら、必要に応じて相手に合わせる必要があります。